

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-352032

(P2004-352032A)

(43) 公開日 平成16年12月16日(2004. 12. 16)

(51) Int.Cl.⁷

B60N 3/04

A47C 27/00

F I

B60N 3/04

A47C 27/00

A47C 27/00

テーマコード (参考)

3B088

3B096

N

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2003-150837 (P2003-150837)

(22) 出願日 平成15年5月28日 (2003. 5. 28)

(71) 出願人 500564493

株式会社イレブンインターナショナル

大阪府大阪市平野区長吉六反2丁目1番1号

(74) 代理人 100067747

弁理士 永田 良昭

(74) 代理人 100121603

弁理士 永田 元昭

(72) 発明者 板倉 剛

大阪府大阪市平野区長吉六反2丁目1番1号 株式会社イレブンインターナショナル内

Fターム(参考) 3B088 FA03 FB01 FB06 FC01 FC02

3B096 AB02 AB10 AC02 AC08 AD07

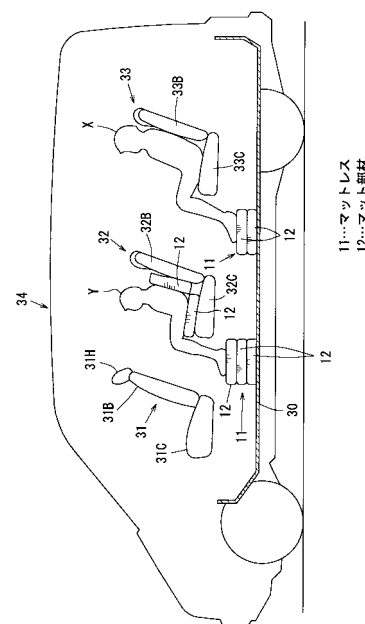
(54) 【発明の名称】 車両用マットレス

(57) 【要約】

【課題】複数のマット部材を折畳みおよび展開可能に連設することにより、乗員の快適性向上を図ることができ、また非使用時にはコンパクトに折畳むことができる車両用マットレスの提供を目的とする。

【解決手段】車両のシート32、33またはフロアパネル30に上載して使用される車両用マットレスであって、複数のマット部材12が折畳みおよび展開可能に連設された車両用マットレス11であることを特徴とする。

【選択図】 図5



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

車両のシートまたはフロアパネルに上載して使用される車両用マットレスであって、複数のマット部材が折畳みおよび展開可能に連設された車両用マットレス。

【請求項 2】

上記複数の各マット部材はマット部材毎に分離可能に連結された請求項 1 記載の車両用マットレス。

【請求項 3】

上記複数のマット部材は可撓性ヒンジ部を介して着脱可能に連結された請求項 1 または 2 記載の車両用マットレス。

10

【請求項 4】

上記複数のマット部材のうちの 1 つのマット部材には枕部材が一体または着脱可能に設けられた請求項 1 ～ 3 の何れか 1 に記載の車両用マットレス。

【請求項 5】

上記マット部材は撥水性の表皮部を備えた請求項 1 ～ 4 の何れか 1 に記載の車両用マットレス。

【請求項 6】

上記複数のマット部材を車両の前後方向に展開可能に連設すると共に、上記マット部材の車幅方向には側方マット部材が着脱可能に連設された請求項 1 ～ 5 の何れか 1 に記載の車両用マットレス。

20

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、車両のシートまたはフロアパネルに上載して使用されるような車両用マットレスに関する。

【0002】

【従来の技術】

一般に自動車の前列シート（ドライバーズシート、パッセンジャーズシート）、中間列シート、後列シートは大人の体格に対応して寸法設定されているので、子供等の体格が小さい乗員がシートに着座すると、足がフロアに届かない場合があり、またシートベルトによる体格が小さい子供等の乗員拘束も不安定となる問題点があった。

30

【0003】

一方、車両の前後方向に 1 列目シート、2 列目シート、3 列目シートのように複数列のシートを備えたワンボックスカーの如き車両において、各シートのシートバックを後方へ倒して、シートバックとシートクッションとが略面一状となるシートアレンジ構造を有する車両のシート装置が知られている。

【0004】

この従来構造のシート装置においてはシートバックを後方へ倒したフルフラット時には乗員がシート上に寝転ぶことができ、室内の快適性向上を図ることができるが、シートクッション側にはシートベルトバックルやそのシートベルトが存在するので、充分な乗員の快適性向上を図ることができない問題点があった。

40

【0005】

ところで、複数の部材（背もたれ用部材、座部材、肘掛け部材参照）を接続手段を介して折り畳み可能に連結し、マットレスとしての使用態様と座椅子（ソファ）としての使用態様とを選択すべく構成した折り畳み式のマットレス兼用安楽座椅子が既に発明されている（特許文献 1 参照）。

【0006】

【特許文献 1】

50

特開 2002-125788 号公報。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】

この従来公報に開示されたものは、一般家庭等の室内において使用されるマットレス兼ソファである関係上、車両の乗員の快適性向上を図るものではない。そこで、この発明は複数のマット部材を折畳みおよび展開可能に連設することにより、乗員の快適性向上を図ることができ、また非使用時にはコンパクトに折畳むことができる車両用マットレスの提供を目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

この発明による車両用マットレスは、車両のシートまたはフロアパネルに上載して使用される車両用マットレスであって、複数のマット部材が折畳みおよび展開可能に連設されたものである。

【0009】

上記構成によれば、マット部材をフロアパネルに上載するとフロアに足が届かない乗員の足置きとなり、マット部材をシートクッションに上載してシート座面を嵩上げすると、大人用のシートベルトにて子供等の体格が小さい乗員であっても、適切に拘束することができ、またフルフラットにシートアレンジされたシートクッションおよびシートバック上に複数のマット部材を上載すると、シートベルトバックルやそのシートベルトがマット部材にて覆われ、乗員が快適に寝転ぶことができ、充分な乗員の快適性向上を図ることができる。

【0010】

この発明の一実施態様においては、上記複数の各マット部材はマット部材毎に分離可能に連結されたものである。

上記構成によれば、マット部材の連結数量を任意に選定することで、足置き部材、シート座面の嵩上げ部材、マットレス部材としての各使用形態をニーズに応じて選択することができる。

【0011】

この発明の一実施態様においては、上記複数のマット部材は可撓性ヒンジ部を介して着脱可能に連結されたものである。

上述の可撓性ヒンジ部としては面ファスナ等を用いてもよい。

上記構成によれば、ヒンジ部が可撓するので、複数のマット部材の折畳み、展開が容易なうえ、使用時の違和感をなくすことができる。

【0012】

この発明の一実施態様においては、上記複数のマット部材のうちの1つのマット部材には枕部材が一体または着脱可能に設けられたものである。

上記構成によれば、枕部材で乗員の頭部を支えることができるので、快適性のさらなる向上を図ることができる。

【0013】

この発明の一実施態様においては、上記マット部材は撥水性の表皮部を備えたものである。

上記構成によれば、乗員が水や飲物等をこぼしても、これらのマット部材内部への浸入を防止することができる。

【0014】

この発明の一実施態様においては、上記複数のマット部材を車両の前後方向に展開可能に連設すると共に、上記マット部材の車幅方向には側方マット部材が着脱可能に連設されたものである。

上記構成によれば、車両の右列および左列のシート上に連続した広いマットレス面を構成することができる。

【0015】

10

20

30

40

50

【実施例】

この発明の一実施例を以下図面に基づいて詳述する。

図面は車両用マットレスを示し、このマットレス 11 は車両のシートまたはフロアパネルに上載して使用されるものであり、図 1 は展開した状態を示し、図 2 は折畳んだ状態を示し、図 3 は 1 つのマット部材を示し、図 4 はその断面構造を示す。

【0016】

まず、図 3、図 4 を参照して 1 つのマット部材 12 の構成について説明する。

このマット部材 12 は直方体形状に構成され、所定の弾力性を確保するためにスポンジ部材 13（内部部材）を備え、このスポンジ部材 13 の外部を表皮部 14 で囲繞し、この表皮部 14 の外面には撥水処理を施している。なお、表皮部 14 それ自体を撥水性の材料で構成してもよい。また、表皮部 14 は布、合成樹脂シート、合成皮革、革などの少なくとも 1 層から形成することができ、さらに、表皮部 14 の内部にはスポンジ部材 13（クッション部材）に代えて、低反発クッション部材や空気または水を充填する構造を採用してもよい。

【0017】

また上述のマット部材 12 は上下の主面部 a、b（一方の主面部 a と、他方の主面部 b）と、左右の側面部 c、d（短辺側の一方の側面部 c と、短辺側の他方の側面部 d）と、前後の側面部 e、f（長辺側の一方の側面部 e と、長辺側の他方の側面部 f）とを備え、側面部 f の下端および主面部 b の一端から外方に延びる可撓舌片 15 を上述の表皮部 14 にて一体的に形成して、この可撓舌片 15 の上部には面ファスナ 16 を縫合手段等により接合固定している。

【0018】

さらに、主面部 a の他端部にも面ファスナ 16 を縫合手段等により接合固定している。上述の可撓舌片 15 および面ファスナ 16、16 はマット部材 12 の長手方向のほぼ全長にわたって形成されている。

【0019】

上述の側面部 f の中間にはその長手方向に沿ってファスナ 7 を取付け、このファスナ 7 の開閉により表皮部 14 の内部にスポンジ部材 13（クッション部材）を出し入れ可能に収納すべく構成している。

【0020】

図 3、図 4 で示したマット部材 12（同一形状のマット部材）を複数設け、1 つのマット部材 12 の可撓舌片 15 側の面ファスナ 16 に対して、次のマット部材 12 の主面部 a 側の面ファスナ 16 を接続し、以下、複数のマット部材 12、12 の向きを交互に逆向きにしながら接続すると、図 1 に示すマットレス 11 となる。つまり、同一形状の複数のマット部材 12 を設け、これら各マット部材 12 の向きを順次逆向きにして展開および折畳み可能に構成すると共に、各マット部材 12 毎に分離可能に構成したものである。

【0021】

図 1 に示す展開状態のマットレス 11 は、面ファスナ 16、16 で接合された部分を可撓舌片 15 を支点として順次折畳むと、図 2 に示すようにジクザク状の折り畳み状態となる。この場合、マット部材 12 は所定の厚みを有するが、折り畳んだ時には各側面部が揃うように整列状に折畳まれる。

【0022】

つまり、このマットレス 11 は複数のマット部材 12 が折畳みおよび展開可能に連設されると共に、各マット部材 12、12…がマット部材 12 1 つ毎に分離可能に連設されたものであり、かつ複数のマット部材 12、12…が可撓性ヒンジ部としての可撓舌片 15 および面ファスナ 16、16 を介して着脱可能に連結されたものである。

【0023】

次に図 5、図 6 を参照して上述のマットレス 11 の使用形態について説明する。

図 5、図 6 はフロアパネル 30 上に前列シート 31 と、中間列シート 32 と、後列シート 33 とを備えたワンボックスタイプの車両 34 を示し、前列シート 31 はシートクッション

ン 3 1 C とシートバック 3 1 B とヘッドレスト 3 1 H とを有し、中間列シート 3 2 はシートクッション 3 2 C とシートバック 3 2 B とを有し、後列シート 3 3 はシートクッション 3 3 C とシートバック 3 3 B とを有する。

【0024】

上述の各シートバック 3 1 B, 3 2 B, 3 3 B はそれぞれのシートクッション 3 1 C, 3 2 C, 3 3 C に対して後列へ傾倒可能に構成されていて、シートクッション 3 2 C, 3 3 C を後方へ倒した場合には図 6 に示すようにシートクッション 3 2 C, 3 2 C とシートバック 3 2 B, 3 2 B とがフルフラットになるように構成されている。

【0025】

図 5 に示すように、体格が小さい子供等の乗員 X が通常着座状態の後列シート 3 3 に着座する場合、マット部材 1 2, 1 2 を 2 つ用いて、これらのマット部材 1 2, 1 2 を上下方向に積み重ねた状態で、乗員 X の足元スペースにおけるフロアパネル 3 0 に上載すると、フロアに足が届かない乗員 X の足置きとなる。

【0026】

体格がさらに小さい子供等の乗員 Y が通常着座状態の中間列シート 3 2 に着座する場合、L 字状に展開した 2 つのマット部材 1 2, 1 2 をシートクッション 3 2 C およびシートバック 3 2 B の乗員着座側に配設すると共に、3 つのマット部材 1 2, 1 2, 1 2 を上下方向に積み重ねた状態で、乗員 Y の足元スペースにおけるフロアパネル 3 0 に上載すると、シート座面を嵩上げすると共に、背もたれ面を前方に設定することができて、体格が小さい乗員 Y であっても大人用のシートベルトにて適切に拘束することができ、かつ足元スペースのマット部材 1 2 はフロアに足が届かない乗員 Y の足置きとなる。

【0027】

また図 6 に示すように、中間列シート 3 2 および後列シート 3 3 をフルフラット状態に設定した後、図 1 に示す複数のマット部材 1 2 … が展開状に連設されたマットレス 1 1 を、各シート 3 2, 3 3 のシートクッション 3 2 C, 3 3 C およびシートバック 3 2 B, 3 3 B 上に敷設すると、シート 3 2, 3 3 上に存在するシートベルトバックルやそのシートベルトがマット部材 1 2 にて覆われるので、乗員 Z が快適に寝転ぶことができ、充分な乗員の快適性向上を図ることができる。

【0028】

さらに図 7 に示すように中間列シート 3 2 を車両後方にシートスライドさせ、前列シート 3 1 の後部におけるフロアパネル 3 0 上に複数のマット部材 1 2 … を上下方向に積み重ねた状態で上載すると、中間列シート 3 2 に着座し、かつ足を真っ直ぐに伸ばした乗員 Z の足置きとして有効利用することができ、この場合、乗員 Z は他の乗員 X, Y であってもよい。

【0029】

このように図 1 ～図 7 で示した実施例の車両用マットレスは、車両 3 4 のシートまたはフロアパネル 3 0 に上載して使用される車両 3 4 用マットレス 1 1 であって、複数のマット部材 1 2 … が折畳み（図 2 参照）および展開可能（図 1 参照）に連設されたものである。

【0030】

この構成によれば、マット部材 1 2 をフロアパネル 3 0 に上載すると図 5 で示したようにフロアに足が届かない乗員 X, Y の足置きとなり、マット部材 1 2 をシートクッション 3 2 C に上載してシート座面を嵩上げすると、大人用のシートベルトにて子供等の体格が小さい乗員 Y であっても、適切に拘束することができ、また図 6 に示したようにフルフラットにシートアレンジされたシートクッション 3 2 C, 3 3 C およびシートバック 3 2 B, 3 3 B 上に複数のマット部材 1 2 … を上載すると、シートベルトバックルやそのシートベルトがマット部材 1 2 にて覆われ、乗員が快適に寝転ぶことができ、充分な乗員の快適性向上を図ることができる。

【0031】

しかも、上記複数の各マット部材 1 2 … はマット部材 1 2 毎に分離可能に連結されたものであるから、マット部材 1 2 の連結数量を任意に選定することで、足置き部材、シート座

10

20

30

40

50

面の嵩上げ部材、マットレス部材としての各使用形態をニーズに応じて選択することができ、かつマット部材 1 2 の収納時には収納スペースに対応して、マット部材 1 2 を分割して収納することもできる。さらに車両に対する出し入れ操作も極めて容易となる。

【0032】

また、上記複数のマット部材 1 2 …は可撓性ヒンジ部（可撓舌片 1 5、面ファスナ 1 6 参照）を介して着脱可能に連結されたものである。

この構成によれば、ヒンジ部（可撓舌片 1 5、面ファスナ 1 6 参照）が可撓するので、複数のマット部材 1 2 の折畳み、展開が容易なうえ、使用時の違和感をなくすることができる。

【0033】

さらに、上記マット部材 1 2 は撥水性の表皮部 1 4 を備えたものであるから、乗員が水や飲物等をこぼしても、これらのマット部材 1 2 内部への浸入を防止することができる。

【0034】

また実施例で示したように同一形状の複数のマット部材 1 2 を設け、これら各マット部材 1 2 をその接続向きを順次逆向きにして分離可能に接続し、接続マット部材の数量を任意に変更すると、足置き態様、シート座面の嵩上げ態様、背もたれ面の前出し態様、マットレス態様をニーズに応じて選定することができ、かつマット部材 1 2 は同一形状のものであるから、その生産性向上を図ることができる。

【0035】

図 8 はマット部材 1 2 の他の実施例を示し、表皮部 1 4 の全体または所定部分をフレンチパイル 1 4 F P（面ファスナ 1 6 を係合可能な生地）で形成したものである。このように比較的広い範囲にフレンチパイル 1 4 F P を用いると、このフレンチパイル 1 4 F P の何れの部位にも面ファスナ 1 6 を接合することができるので、複数のマット部材 1 2 の組み合わせの自由度が拡大できて、マットレス使用の多様性向上を図ることができる。

【0036】

図 9、図 10 は可撓性のヒンジ部の他の実施例を示し、先の実施例においては可撓舌片 1 5 を表皮部 1 4 に一体または一体的に形成したが、図 9、図 10 に示すこの実施例においては表皮部 1 4 と別体の可撓舌片 1 8 を設け、この可撓舌片 1 8 側と、各マット部材 1 2 の長辺側の一方の側面部 e の上部および長辺側の他方の側面部 f の下部とにそれぞれ面ファスナ 1 6 を縫合手段により接合固定し、これらの面ファスナ 1 6 および可撓舌片 1 8 から成る可撓性ヒンジ部を介して、複数のマット部材 1 2 をジグザグ状に折畳み可能（図 10 参照）および展開可能（図 9 参照）に連設したものであり、マット部材 1 2 を展開させた場合には、図 9 に示すように、その表裏両面側に可撓舌片 1 8 …が露呈しないように構成している。

【0037】

このように構成しても、その他の構成、作用、効果および使用の形態については先の実施例とほぼ同様であるから、図 9、図 10 において前図と同一の部分には同一符号を付して、その詳しい説明を省略するが、これら何れの実施例においてもマットレス 1 1 の非使用時には各マット部材 1 2 …をジグザグ状に折畳んで、整然かつコンパクトに収納することもでき、あるいは複数の分割して収納することもできる。

【0038】

図 11、図 12 は複数のマット部材 1 2 のうちの 1 つのマット部材 1 2 に枕部材または枕部を設けた構成を示し、図 11 に示す実施例ではマット部材 1 2 の可撓舌片 1 5 における面ファスナ 1 6 に対して、内部部材 1 9 と表皮部材 2 0 と面ファスナ 2 1 とから成る枕部材 2 2 を、起伏可能および着脱可能に取付けたものである。

【0039】

このように起伏可能かつ着脱可能な枕部材 2 2 を設けると、枕部材 2 2 の非使用時には図 11 に仮想線 α で示すように伏動させてもよく、また枕部材 2 2 を取外してもよい。さらに、マット部材 1 2 内部のスポンジ部材 1 3 と枕部材 2 2 の内部部材 1 9 との材質を同一にすることもでき、異ならせることもできる。

10

20

30

40

50

【0040】

一方、図12に示す実施例ではマット部材12のスポンジ部材13に断面が半円形状の膨出部13aを一体形成し、この膨出部13aを表皮部14で一体的に囲繞することにより、マット部材12と一体の枕部材23（つまり枕部）を形成したものである。このように構成すると、図11の実施例に対して、部品点数の低減を図ることができる。

【0041】

何れにしても、これら図11、図12で示した実施例においては、複数のマット部材12…のうちの1つのマット部材12には枕部23または枕部材22が一体または着脱可能に設けられたものであるから枕部材22、23で乗員の頭部を支えることができ、乗員の快適性のさらなる向上を図ることができる。なお、枕部材22、23の断面形状は台形状、半円形状、円形状、楕円形状またはその他形状の何れであってもよい。

【0042】

図13は車両用マットレスの他の実施例を示す平面図であって、複数のマット部材12…を車両の前後方向に展開可能に連設すると共に、これら複数のマット部材12の車幅方向には複数の側方マット部材12Sが着脱可能に連設されたものである。

【0043】

すなわち、マット部材12と側方マット部材12Sとの対向面にはそれぞれ面ファスナ24…を縫合手段等により接合固定し、この面ファスナ24を介してマット部材12と側方マット部材12Sとを接続および分離可能に構成したものである。

【0044】

ここで、側方マット部材12Sの構造はマット部材12の構造と同等であるから、この側方マット部材12Sにおいてマット部材12と同一の部分には同一符号を付して、その詳しい説明を省略している。また、上述の面ファスナ24はマット部材12および側方マット部材12Sにおける短辺側の一方の側面部Cと他方の側面部dとの両側面部に設けることが望ましい。

【0045】

このように構成した車両用マットレス11の使用形態を図14、図15を参照して、以下に説明する。なお、図14において矢印Fは車両前方を示し、矢印Rは車両後方を示す。

【0046】

図14に仮想線で示すように前列シート31（但し、パッセンジャーズシート）のシートバック31Bを後方に倒すと共に、中間列シート32、32のシートバック32B、32Bを後方に倒して、前列シート31のシートクッション31Cおよびシートバック31Bと、中間列シート32、32のシートクッション32C、32Cおよびシートバック32B、32Bと、後列シート33のシートクッション33Cとをフルフラットに成す。

【0047】

但し、図14の実施例においては後列シート33をベンチタイプのシートに設定している。

次に、このフルフラットの面積に対応する数量のマット部材12を車両の前後方向に連設し、同様に、このフルフラットの面積に対応する数量の側方マット部材12Sを車両の前後方向に連設し、マット部材12群と側方マット部材12S群との対向部を面ファスナ24で接続して、この接続されたマットレス11を図14に示す仮想線でフルフラット状のシートに上載すると、図15に示すようになり、車両の右列および左列の各シート31、32、33上に車両の前後方向および車幅方向に連続した広いマットレス面を構成することができる。

【0048】

特に、中間列シート32が図14に示すようにバケットタイプのシートで構成されていても、これらシート32、32間の隙間上部にマット部材12および側方マット部材12Sが位置するので、バケットシート間の空間部上方を連続して覆うマットレス面となり、マットレス11上でリラックスする際の乗員の快適性向上を図ることができる。

【0049】

なお、ドライバーズシートのシートバック31Bをパッセンジャーズシートのシートバック

ク 3 1 B と併せて後方に倒す際には、マット部材 1 2 と側方マット 1 2 S との連設により上述同様に車両の前後方向および車幅方向に連続したマットレス面を構成することができ、特に、バケットシート構造の運転手と助手席との間の空間部上方をもマット部材 1 2、側方マット部材 1 2 S により連続して覆うことができる。

【0050】

このように図 1 3 ～図 1 5 で示した実施例の車両用マットレス 1 1 は、上記複数のマット部材 1 2 を車両の前後方向に展開可能に連設すると共に、上記マット部材 1 2 の車幅方向には複数の側方マット部材 1 2 S が着脱可能に連設されたものであるから、車両の右列および左列のシート 3 1, 3 2, 3 3 上に連続した広いマットレス面を構成することができる。

10

【0051】

この発明の構成と、上述の実施例との対応において、この発明の可撓性ヒンジ部は、実施例の可撓舌片 1 5 および面ファスナ 1 6 から成るヒンジ部または可撓舌片 1 8 および面ファスナ 1 6 から成るヒンジ部に対応するも、この発明は、上述の実施例の構成のみに限定されるものではない。

【0052】

例えば、シートバックをシートクッションに前倒させてフルフラットと成すシートアレンジ構造の車両においては、マットレスを前後列のシートバック上に上載すればよく、車種に対応して多様の使用形態が得られるものである。

【0053】

また上記実施例においてはマットレスを上載する車両の一例としてワンボックスカーを例示したが、2 ボックスまたは 3 ボックス等の他の車両用としても使用することができるのは勿論である。

20

【0054】

【発明の効果】

この発明の車両用マットレスによれば、複数のマット部材を折畳みおよび展開可能に連設することにより、乗員の快適性向上を図ることができ、また非使用時にはコンパクトに折畳むことができる効果がある。

【0055】

【図面の簡単な説明】

30

【図 1】本発明の車両用マットレスを展開した状態で示す斜視図。

【図 2】マットレスの折り畳み状態を示す斜視図。

【図 3】マット部材単体の斜視図。

【図 4】マット部材の断面図。

【図 5】マットレスの使用状態の一例を示す側面図。

【図 6】マットレスの使用状態の他の例を示す側面図。

【図 7】マットレスの使用状態のさらに他の例を示す側面図。

【図 8】マット部材の他の実施例を示す断面図。

【図 9】車両用マットレスの他の実施例を展開状態で示す斜視図。

【図 10】図 9 のマットレスの折り畳み状態を示す斜視図。

40

【図 11】枕部材を有するマット部材の断面図。

【図 12】枕部を有するマット部材の断面図。

【図 13】車両用マットレスのさらに他の実施例を示す平面図。

【図 14】マットレスが敷設される車両のシートレイアウトを示す平面図。

【図 15】マットレス敷設時の平面図。

【符号の説明】

1 1 … マットレス

1 2 … マット部材

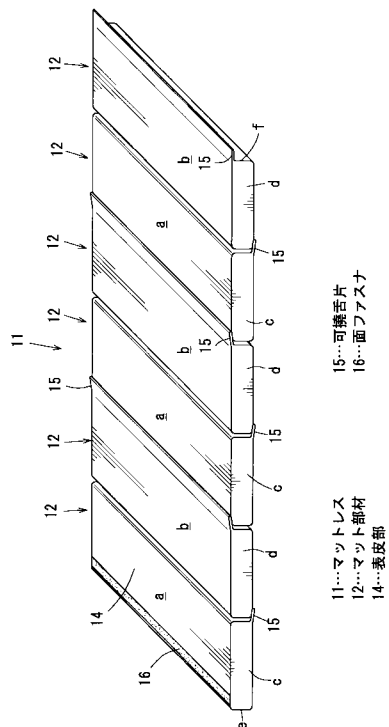
1 2 S … 側方マット部材

1 4 … 表皮部

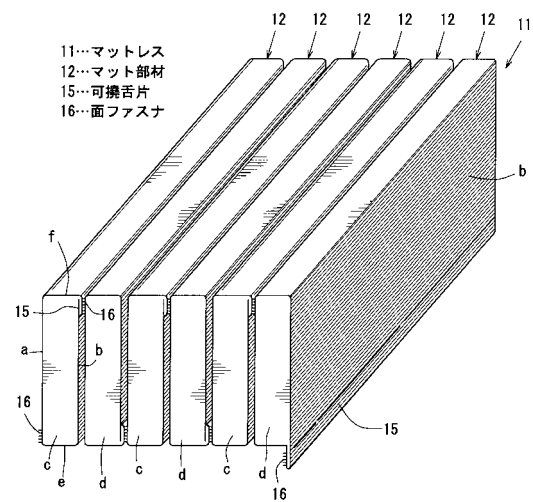
50

15, 18…可撓舌片
 16…面ファスナ
 22, 23…枕部材

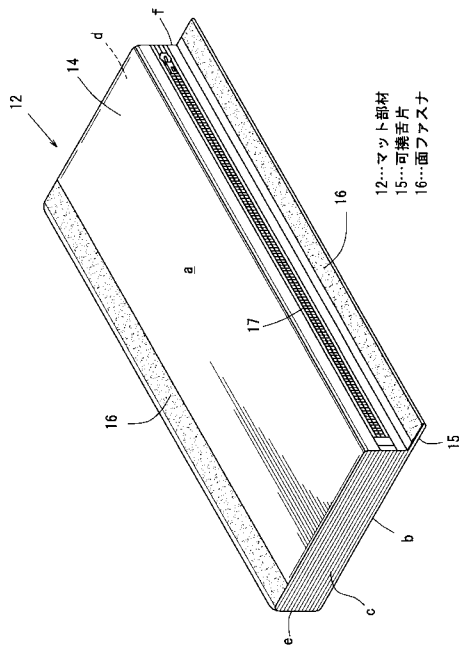
【図1】



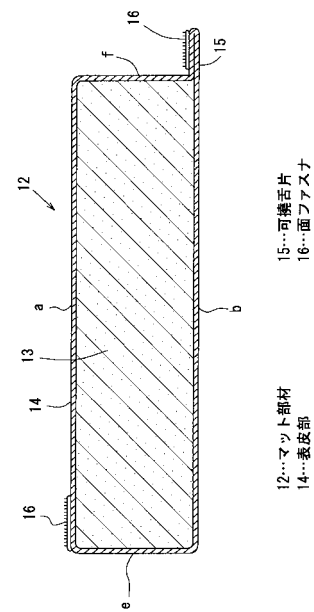
【図2】



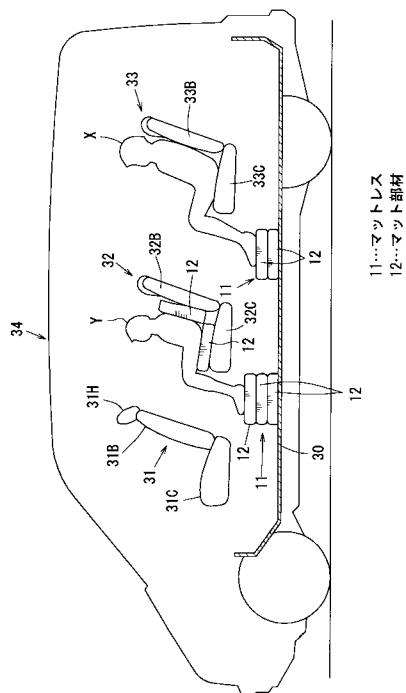
【図 3】



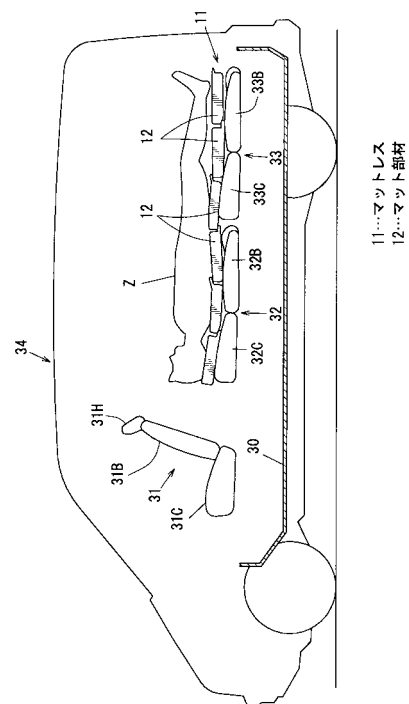
【図 4】



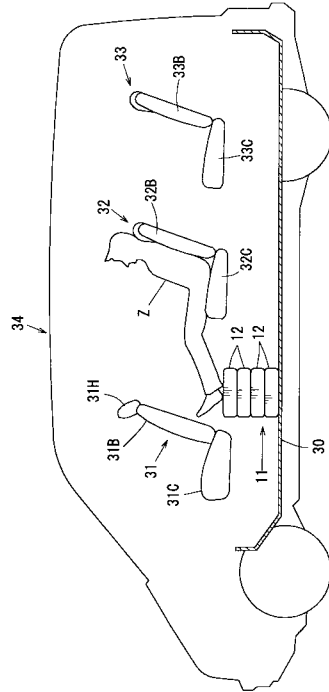
【図 5】



【図 6】

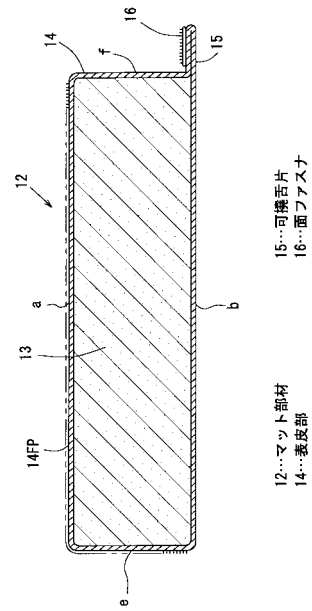


【図 7】



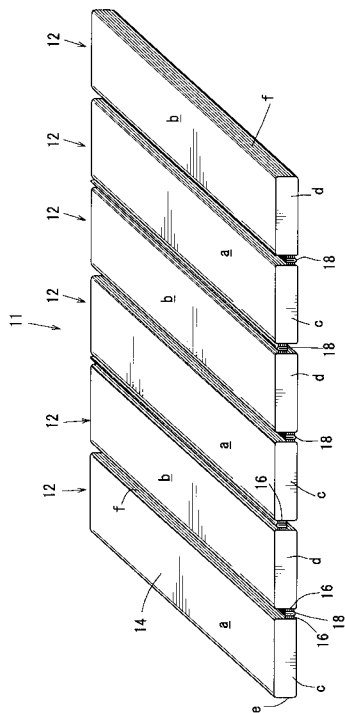
11...マットレス
12...マット部材

【図 8】



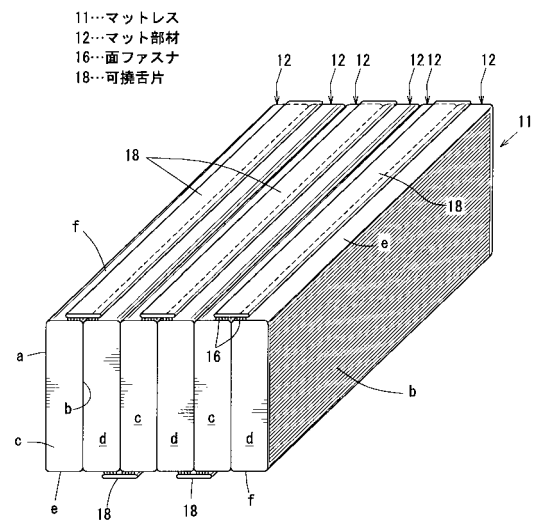
12...マット部材
14...表皮部
15...可換舌片
16...面ファスナ

【図 9】



11...マットレス
12...マット部材
14...表皮部
16...面ファスナ
18...可換舌片

【図 10】



11...マットレス
12...マット部材
16...面ファスナ
18...可換舌片

